

## 第4章 新しい図書館等施設の目的・基本方針・サービス及び望ましい施設規模

### 4.1 新しい図書館等施設の目的・基本方針・サービス

#### (1) 公立図書館(文化施設)としての基本的な目的・サービス

新しい図書館に関しては、町民の要望を踏まえて、多くの町民ニーズに応えられ、多くの町民が利用しやすい図書館づくりが大切です。そのためには図書館の目的・基本方針を明らかにして基山町がめざす図書館の姿を実現に向けて、図書館サービスを展開して行くことが必要です。

- ① 町民が新しい図書館に期待しているものを整理

町民の要望、町民のニーズを明らかにする



- ② 町民の要望、ニーズを基に図書館の目的・基本方針を整理

新しい図書館の目的・基本方針



- ③ 新しい図書館の目的・基本方針に対する空間施設(サービス)

新しい図書館の空間施設(サービス)

基山町の図書館の現状は、「第3章 3.1 基山町立図書館の現状と課題」に示したとおりです。基山町の新しい図書館等施設について検討する場合、施設として望ましい規模、どのような機能（設備）を備えたものが良いか、町民に対してどのような施設としてサービスを提供して行けば町民の要望に応えられるか。そのためには、望ましい図書館等施設（文化施設）としての目的・基本方針・サービスを明確にすることです。

## 【目的】

### 町の文化的情報(知・学・交流)の拠点

ここでの文化的とは、受け継がれてきた歴史や学問・教育などの進歩により社会が発展し生活環境が向上していく「人づくり」をサポートし育成していく活動をいいます。

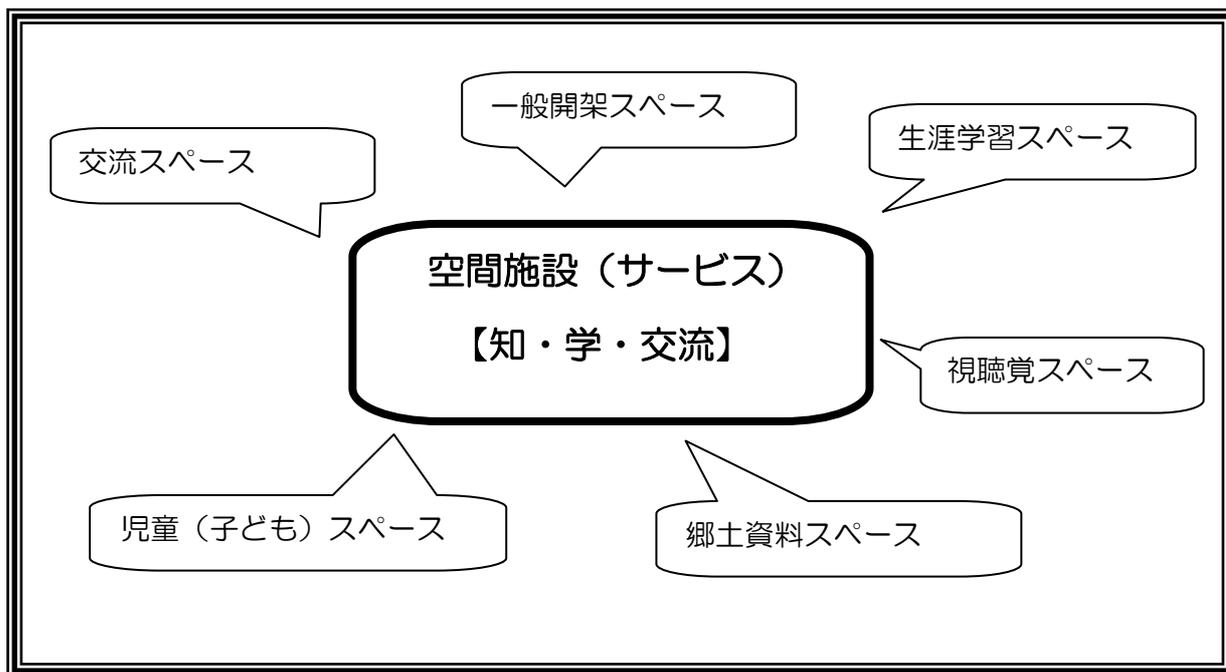
#### \*\*\* 望ましい図書館等施設の基本方針 \*\*\*

- ・町民の文化的な生活環境の向上のための情報を提供  
情報（書籍など）を提供することにより、町の文化的環境の向上を図る
- ・町（郷土）の歴史に関する情報を提供  
郷土の歴史を伝える資料を収集・整理し、教育・研究などに活用する
- ・町民の生涯学習の場を提供  
多様な学習の機会（生涯学習）を提供できる空間を創る
- ・町民の「交流の場」を提供  
町民が気楽に立ち寄り、人と人との出会い・人と本の出会いから新しいものを見つけ出す空間を提供する

## (2) 望ましい図書館の空間施設（サービス）

図書館の空間施設としては、下記のような空間の提供が望まれます。

- ・一般開架スペース
- ・郷土資料スペース
- ・視聴覚スペース
- ・児童（子ども）スペース
- ・生涯学習スペース
- ・交流（新聞・雑誌等）スペース



(注) 多機能空間を持った図書館は、町民を満足できるものと考えます。しかし、いろいろな機能（空間）を加えていくと町民の満足は高まりますが、維持管理費が高くなります。最終的には、候補地の面積、町の総合計画（マスタープラン）や財政状況などを考慮しながら「望ましい図書館」の規模を検討する必要があります。

表4-1 図書館に対する要望 ～ 図書館の基本的方針 ～ 空間施設(サービス)の関係

図書館に関しては、町民からいろいろな要望(アンケート・ワークショップの例)があります。⇒それらを、「図書館に対する要望」として要素ごとに整理しました。⇒次に「図書館の基本的方針」として4項目に表現(基本キーワード)しました。⇒この「基本的方針」(4項目)を、図書館施設の中に具体的な「かたち:形」として「空間施設(サービス)」として表現しました。

図書館に対する要望		⇒	図書館の基本的方針	⇒	図書館の空間施設(サービス)
アンケート調査及びワークショップのデータ			【のぞましい図書館の基本的な役割】		基本的なサービスを施設の中に具体的な「かたち・形」として表現
情報サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>本の種類が少ない</li> <li>子どもと絵本を広げて読めるスペースがほしい</li> <li>他の地域の人に基山の文化レベルを問われる</li> <li>情報発信収集の拠点(情報の駅)</li> <li>知的好奇心を満たしてくれる所</li> </ul>	⇒	<b>町民の文化的・生活環境の向上のための情報を提供</b> 情報(書籍)を提供することにより、町の文化的環境の向上を図る。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般開館スペース</li> <li>児童(子ども)スペース、児童広場</li> <li>視聴覚スペース、インターネット等スペース</li> <li>閉架書庫(スペース)</li> </ul>
郷土に関する	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史資料館の必要性</li> <li>郷土を伝える施設、郷土に関わる人・書を置く</li> </ul>	⇒	<b>町(郷土)の歴史に関する情報を提供</b> 郷土の歴史を伝える資料を収集・整理し、教育・研究などに活用する。	⇒	郷土資料室スペース
学習する場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆったり読めるスペースが欲しい</li> <li>勉強のスペースがない。</li> <li>学習する場(中学・高校)が欲しい</li> <li>静かに読書できる個室がある</li> </ul>	⇒	<b>町民の生涯学習の場を提供</b> 多様な学習の機会(生涯学習)を提供できる空間を創る。	⇒	生涯学習スペース
人と人の出会い	<ul style="list-style-type: none"> <li>狭すぎる。人が集まる場所なのにスペースがない</li> <li>高齢者が安心して本を読める場所</li> <li>子どもから高齢者までが立ち寄れる施設を求めます</li> <li>本があり、人が集まり、かかわりあう空間</li> </ul>	⇒	<b>町民の「交流の場」を提供</b> 町民が気楽に立ち寄り、人と人の出会い・人と本の出会いから新しいものを見つけ出す空間を提供する。	⇒	交流(ふれあい/新聞・雑誌等)スペース
			図書館等施設の管理運営部門	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>受付、カウンター</li> <li>整理作業室 ・事務室 ・休憩室</li> <li>空調等設備 ・その他(玄関、トイレ、掃除用具など)</li> </ul>

【基山町らしい図書館】に対しては、実際の施設構造(デザイン)や施設内容の検討(設計段階)で具体的に構築していくような取り組みが必要と考えます。

## 4.2 図書館の施設規模の検討に関する基礎データ

### (1) 基山町の人口の推移

基山町の現在の人口は、約 17,700 人（平成 24 年 12 月末日）です。基山町のピーク時の人口は約 19,300 人（平成 11 年）です。その後、我が国の少子化現象等により基山町の人口も減少傾向です。

周辺行政と協力して今後の基山町の「まちづくり」等により魅力ある地域社会を目指していくことが重要である。現在の基山町の「総合計画（マスタープラン）」（平成 18 年 9 月作成）によると将来の目標人口は 21,000 人です。

しかし、現実の我が国の社会情勢等を考慮すると、急激な人口増加は望めないものと推測されます。また、基山町の当面の目標人口は、約 19,000 人と推定されて各種の計画が進められていることを考慮すると、基山町の将来の目標人口は、19,000 人と推定します。

基山町の将来目標人口＝19,000 人

### (2) 図書館施設規模に関する国の基準及び県の基準

#### ① 国の公共図書館の設置及び運営に関する基準

国の公共図書館に関する基準は、平成 24 年 12 月に「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省）が改訂されました。

この基準では、「市町村公立図書館は、知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえ、資料や情報の提供等の利用者及び住民に対する直接的なサービスの実施や読書活動の振興を担う機関として、また、地域の情報拠点として、利用者及び住民の要望や社会の要請に応え、地域の実情の即した運営に努めるものとする。」と明記されています。

また、この基準の参考資料として図書館の目標基準例として人口規模に対して下記のような数値が示されています。

人口	1 万人未満	1 万人～1.5 万人未満	1.5 万人～2 万人未満	2 万人～3 万人未満	3 万人～4 万人未満
延床面積	684m <sup>2</sup>	1,349m <sup>2</sup>	1,395m <sup>2</sup>	1,850m <sup>2</sup>	2,434m <sup>2</sup>
蔵書冊数	74,980 冊	110,928 冊	123,662 冊	153,590 冊	220,523 冊
(開架冊)	50,172 冊	76,503 冊	90,407 冊	99,644 冊	139,660 冊

(注) この基準の数値は、全国の市町村のうち各人口段階で貸出し密度（住民一人当たりの貸出資料数）の上位 10%の市町村の平均数値です。

この数値は、全国の貸出し密度の高い上位 10%の値であるので、そのまま図書館規模として単純に採用すると過大な施設規模になりますので、あくまで参考としてください。

この基準から、基山町の将来（計画）人口は 19,000 人であるから図書館の施設規模は、延床面積は約 1,400m<sup>2</sup>となります。

**国の基準を参考とした場合：基山町の図書館の延床面積＝1,400m<sup>2</sup>**  
**〈現在の面積 392 m<sup>2</sup>の約 3.5 倍の面積〉**

② 佐賀県の公共図書館の設置及び運営に関する基準

佐賀県は平成 21 年 1 月 27 日に「佐賀県公共図書館の設置及び運営に係る今後の方策」を示し、県内公共図書館・公民館図書室が協働して取り組む方策を定めています。

この中で、「公共図書館の設置の当たっては、サービス対象地域の人口分布と人口構成、面積、交通網等を勘案して、適切な位置及び必要な図書館施設の延床面積、職員数、蔵書冊数等を確保するように努めるものとする。」と明記されています。

県内全市町での公共図書館の設置を実現するため、これから設置される公共図書館の設置に係る数値目標を下記のように示されています。

人口規模	延床面積	専任職員数	司書資格者数	蔵書冊数	蔵書能力
1 万人未満	800m <sup>2</sup>	5 人	3 人	5 万冊	当面既存施設で対応 (当面基準は設けない)
1 万人以上～ 2 万人未満	900m <sup>2</sup>	6 人	3 人	6 万冊	
2 万人以上～ 3 万人未満	1,000m <sup>2</sup>	7 人	4 人	7 万冊	

この佐賀県の基準から、基山町の将来（計画）人口は 19,000 人であるから図書館の施設規模は、延床面積は 900m<sup>2</sup>となります。

**佐賀県の基準を参考とした場合：基山町の図書館の延床面積＝900m<sup>2</sup>**  
**〈現在の面積 392 m<sup>2</sup>の約 2.3 倍の面積〉**

### 4.3 基山町に望ましい図書館の施設規模（延床面積）

新しく図書館を建設する場合、図書館の施設（延床面積）の規模に関しては、前記の国の参考基準、佐賀県の基準等があります。一方、地方自治体の経営状態は、財政的に厳しい状態であることを考慮すると、建設後の維持管理費（維持コスト）に対しても考慮して施設規模を計画する必要があります。

図書館は、建築物を建設すればそれで終わりではなく、将来にわたって図書館を維持していく経費がかかることを考慮することも必要です。

#### (1) 国や県の基準値から判断した場合の施設規模

国や県の基準値から単純に判断すると・・・延床面積＝約 900m<sup>2</sup>～1,400m<sup>2</sup>  
（現在の図書館延床面積（392m<sup>2</sup>）の 2.3 倍～3.5 倍の規模）

#### (2) 現在の図書館の年間維持管理費（延床面積：392m<sup>2</sup>）

図書館の維持管理費には、施設規模に対して変化する項目と施設規模に対して変化しない項目があります。

- ・施設規模で変化する項目：人件費（職員数）、光熱空調費、修繕費、清掃費など
- ・施設規模で変化しない項目：インターネット費、図書システム及び保守など、

図書館の施設規模の大きさに関係する維持管理の項目としては、職員数、空調関係費、光熱費、清掃費などがあります。最近5年間の現在の図書館のこれらの主な維持管理費を表示すると下表のとおりです。

職員数・臨時職員（延）	年間の人件費	光熱水費	清掃委託 （トレ 週1回）	年間費用
3人・5人	12,000,000円	1,100,000円	130,000円	24,000,000円

（注）臨時職員（5人）は、年間の契約者の数であり、通常勤務は1人です。

現在の図書館の面積は392m<sup>2</sup>の規模ですが、年間の維持管理は24,000,000円かかっています。

現在の図書館の年間維持管理費＝24,000,000円

※歴史民俗資料館には、職員は配置されておらず、一部、町教育委員会と町民による協働団体との共催事業が行われた例はありますが、管理は図書館職員に委ねられています。

### (3) 新しい図書館の施設規模に対する年間の維持管理の推算

大きな図書館を建設すれば、それに見合った維持管理費が増大します。将来に対する図書館の維持管理費が、現在の維持管理費に対して、大幅に増大することは、町の財政に大きな負担を与えることになります。

ここでは、新しい図書館を建設した場合、施設の年間維持管理費がどの程度必要になるか現在の図書館の維持管理費から推算しました。

図書館の延床面積としては、①900m<sup>2</sup>、②1,100m<sup>2</sup>、③1,400m<sup>2</sup>を想定します。

施設規模の大きさ	現在 (392m <sup>2</sup> ) の場合	①延床面積 900m <sup>2</sup> の場合	②延床面積 1,100m <sup>2</sup> の場合	③延床面積 1,400m <sup>2</sup> の場合
職員数	3人	3人	3人	4人
実働臨時職員	1人	2人	3人	3人
人件費	12,000,000円	13,500,000円	15,000,000円	21,000,000円
光熱費	1,100,000円	2,520,000円	3,080,000円	3,920,000円
清掃委託 (トイ週1回)	130,000円	—	—	—
全館清掃費	(職員が清掃)	1,080,000円	1,320,000円	1,680,000円
小 合	13,230,000円	17,100,000円	19,400,000円	26,600,000円
<b>増加額</b>	—	<b>3,870,000円</b>	<b>6,170,000円</b>	<b>13,370,000円</b>
<b>年間管理費</b>	<b>24,000,000円</b>	<b>27,870,000円</b>	<b>30,170,000円</b>	<b>37,370,000円</b>
<b>費用の増加 比率</b>	—	<b>1.16倍</b>	<b>1.25倍</b>	<b>1.56倍</b>

(注) ①光熱費の単価：1,100,000円/392m<sup>2</sup>=2,800円/m<sup>2</sup> 天井が高くなると単価が上がります。

②清掃費の単価：1,200円/m<sup>2</sup> (清掃費用：延床面積が、大きくなると職員による清掃は困難となります)

図書館の年間維持管理（維持コスト）費は、上記のように図書館面積の増加に比例して増加します。財政状態（図書館経営）を考慮すると、維持管理費は少ない方が望ましいです。費用が現在の1.5倍では負担が大き過ぎます。約1.2倍以下に抑えることが望ましいと考えます。

図書館施設の維持管理費から、現在の約1.2倍以下とすると  
延床面積=1,100m<sup>2</sup>以下

(4) 基山町に望ましい図書館規模（延床面積）

将来、基山町に望ましい図書館規模は、下記の内容から約  $900\text{m}^2 \sim 1,100\text{m}^2$  を対象とすることが望ましいと考えます。

- ① 目標人口 19,000 人の規模からは：約  $900\text{m}^2 \sim 1,400\text{m}^2$
- ② 建設後の年間維持管理（年間コスト）からは： $1,100\text{m}^2$  以下

基山町に望ましい図書館施設の規模（延床面積）＝約  $900\text{m}^2 \sim 1,100\text{m}^2$   
≒ 約  $1,000\text{m}^2$